

藍住町歴史館「藍の館」は、大藍商であった奥村家の旧屋敷十三棟の建造物が、昭和六十二年に十一代当主奥村武夫氏から藍住町に寄附されたのを機に、資料館を新設し平成元年八月に開館しました。国指定重要有形民俗文化財の「阿波藍栽培加工用具一式」をはじめ、徳島県指定有形文化財（建造物）「奥村家住宅」、藍住町指定有形文化財「奥村家文書」の保存・活用



を行い、阿波藍の知識や藍の生活文化の創造、日本遺産「藍のふるさと阿波」日本中を染め上げた至高の青を訪ねて」のストーリーを広く普及する藍の情報センターとして役割を担っています。

藍の歴史や流通について、また藍の栽培から染への加工、藍染めを行うまでの工程を、紙人形や実際に使われた道具とともに分かりやすく展示しています。



また、天然の藍染料による藍染めの体験もできます。



徳島県指定有形文化財

奥村家住宅

奥村家は、「崩」又は「藍屋」の屋号をもつて文化年間（一八〇



奥村家文書

故奥村武夫氏から町に寄贈を受けた文書で、総数は約十三万点にも及ぶ膨大な史料です。藍師兼藍商であった奥村家の経営史料をはじめ、明治十年代における肥料業・酒造業・地主経営のほか、さまざまな経営史料が欠けることなく含まれています。また、天保期から郡付浪人という士分格となり、同時に年貢取立役に任じられていたことから、かなりの数の地方文書が残っており、注目に値します。また、教育史料、三万通を超える書簡なども残されており、他に例を見ないほど充実した史料です。



四（一八八）から藍商として発展します。大坂市場に藍玉を売り込んだほか、幕末には筑前売の株を取得、さらに明治六年（一八七三）には東京の深川に支店を設けるなど、販路を拡大していきました。

「藍屋敷」と呼ばれる藍師・藍商の豪壮な屋敷の代表例である奥村家住宅は、奥村家が藍商として経営を軌道に乗せた文化年間から明治二十年（一八八七）頃にかけて建てられました。主屋は広い敷地の北寄りに南面し



て建ち、これを囲むように南と東西に藍染料の加工場である寢床や贅を尽くした西座敷、県下でも例の少ない奉公人部屋など十三棟が立っています。主屋は、間口十九八、奥行九、九の入母屋本瓦葺二階建てで、棟札から文化五年（一八〇八）に建てられ、文政十年（一八二七）に二階を継ぎ足す増築がされたことが分かっています。三棟ある藍寢床は藍屋敷特有の建物で、藍の寝せ込みの作業のためにさまざまな工夫が凝らされています。建物群がほぼ完全に保存された藍屋敷は数少なく、奥村家住宅



藍住町歴史館

藍の館

～ようこそ『阿波藍』の世界へ～



開館時間 9時～17時

休館日 火曜日(祝日は開館)
12月29日～1月3日まで

入館料 大人 300円 中高生 200円 小学生 150円
※20名以上の団体の場合は50円引きになります。
※障がい者手帳を掲示いただいた方は100円引きになります。

藍染体験料 ハンカチなど 1,000円～
(藍染体験の受付は15時30分まで)

お問い合わせ 藍住町歴史館「藍の館」
〒771-1212
徳島県板野郡藍住町徳命字前須西172番地
TEL.088-692-6317



AINOYAKATA
Instagram

《藍の館への交通》

- JR徳島駅前から徳島バス(鍛冶屋原線)奥野停留所下車後徒歩約10分
- JR勝瑞駅前から車で約10分 徳島駅前から車で約25分
- 徳島空港から車で約30分 藍住ICから車で約5分 板野ICから車で約10分

